

平成31年度の管理運営状況（海の森水上競技場）

指定管理者：海の森水上競技場マネジメント共同企業体

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等
管理状況	適切な管理の履行	水上競技施設の管理	<ul style="list-style-type: none"> ●水面の安全管理には細心の注意を払い、動力船に乗船する者、水面付近を視察する者についてはライフジャケットの装着を義務付けるなど利用者の安全確保を徹底した。 ●水門閉鎖時は揚排水ポンプを10時間稼働させ水質の維持に努めた。また、日常点検、定期点検、臨時点検、及び定期運転を実施し、常に良好な状態を維持した。 ●潮位の変動で機能するコースロープ・ブイの特殊な構造を理解するとともに適正な管理を行った。また、水面清掃を適宜行い競技者の走行に支障がないよう対応した。
		人材育成の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●朝礼時において挨拶練習、手話、簡単な英会話練習を実施し、マナーアップの啓発を行った。また、定例ミーティング時において電話対応研修を行い明るく元気に対応するよう周知した。
	法令等の遵守	都への報告・連絡	<ul style="list-style-type: none"> ●災害発生時の緊急連絡体制については、管理事務所内に掲示し速やかに対応できるようにした。また、台風15号及び19号の通過後においては被害状況など逐次報告した。
		情報漏えい事故への対応	<ul style="list-style-type: none"> ●東京2020大会会場であることを踏まえ、東京都、警視庁及び内閣府の指導を受け、サイバーセキュリティ対策の策定、情報システムやネットワーク等のセキュリティ強化、ネットワークを利用する全スタッフへのセキュリティ研修実施など、ハード・ソフト両面で対策を強化した。また、東京都、警視庁及び内閣官房等が主催する研修や演習、リスク評価等に積極的に参加するなど関係機関との連絡体制構築やサイバーセキュリティに対する意識向上に努めた。
事業効果	安全性の確保	防災への配慮・緊急時対策	<ul style="list-style-type: none"> ●毎日の施設巡回点検、毎月の安全点検パトロール（水上含む）を実施し、施設・設備等の不具合箇所がある場合は速やかに修繕等を行った。 ●海の森水上競技場危機管理マニュアルを策定し、事故発生時の対応、自然災害時の対応、テロ情報等の入手時及び不審物等の発見時対応等について、朝礼及び定例ミーティング時において日々想定される情報を共有した。 ●台風15号及び19号に通過時は高潮が予想されることから警戒態勢に入り、施設内に待機、24時間体制で状況を監視し、台風通過後は場内を巡回点検を行い、損傷箇所については速やかに東京都に報告した。 ●2月に東京消防庁臨港消防署の指導を受け、AED及び心肺蘇生訓練、動力ポンプ放水訓練など総合的な消防訓練を4回実施した。また、東京2020大会までに優良防火対象物認定証（優マーク）取得を目標にスタッフ各自の役割を理解するとともに防火安全に対する意識の向上に努めた。 ●新型コロナウイルス感染症対策について、東京都と情報共有するとともに発症が認められた場合の連絡体制の周知及び感染拡大防止の観点から、消毒液の設置箇所を増やしたり、手洗いの励行、マスクの着用など現場の状況に応じた防止策を講じた。
		自主事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●自主事業イベントとして東京2020大会開催に先駆け、10月12日～25日までプレゲームズトレーニング（PGT）を実施し、当競技場における練習の受け入れを行った。各国の競技団体（NF）、オリンピック委員会（NOC）、パラリンピック委員会（NPC）のいずれかから推薦を受け、東京2020大会への出場が期待される選手を対象とした。大会開催都市におけるこれまでのPGTは施設運営者の判断で開催されない事もあったようだが、この度、東京都、オリパラ組織委員会、日本ボート協会及び日本カヌー連盟のご協力をいただき開催することができた。期間中、台風19号の影響で参加をキャンセルする国もあったが、5ヶ国のべ653人にご利用いただいた。（参加申込では9ヶ国のべ1,052人）期間中は、指定管理者のスタッフが救命艇及び陸地から安全監視するなど、パラカヌーをはじめ水面を利用する選手が安全にご利用いただけるよう安全管理を徹底した。
	事業の取組み		<ul style="list-style-type: none"> ●2019世界ボートジュニア選手権（2019WRJCH）及びカヌースプリントテストイベントの開催に際し、各国の競技団体（NF）を対象に、整備等のサービスを付帯した競技艇の貸出を行った。サービス内容は、艇付属部品の調整・交換部品の提供、故障発生時の緊急修理、予備艇の提供等を行った。
		サービス向上に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ●東京2020大会のテストイベントの位置づけとして8月7日～11日に世界ボートジュニア選手権（日本ボート協会主催 参加者17,904人）、9月12日～15日にカヌースプリントのテストイベント（参加者7,647人）の開催期間中にあたり、東京都と調整のうえ開館時間を延長し、早朝5時から当施設を開館し、閉館を21時まで延長した施設運営を行った。特に世界ボートジュニア選手権は世界50ヶ国以上から600名の選手が参加され、本大会さながらの熱いレースが繰り広げられ、東京2020大会へ向けた雰囲気を感じ取ることができたため、この経験を本大会に生かしていく。なお、当水上競技場のコースを利用した選手からは「大変漕ぎやすい」との感想をいただいた。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ●定期的に東京都、東京2020オリパラ組織委員会及び指定管理者の3者において、仮設オーバーレイ工事など工事関係の工程確認及び当競技場内の安全衛生管理を共有する場を設け、各組織の業務が円滑に進められるよう関係機関との連携を強化した。 	

【作成上の注意事項】

- ・挙げていただく項目数に制限はありませんが、A4で1枚に収まるようご作成ください。
- ・ご提出いただいたプレゼンテーション資料は、評価委員会の会議資料として、後日、オリンピック・パラリンピック準備局のHPIに掲載します。